

宮沢賢治（雨ニモマケズ 02）

こんにちは、ナビゲーターの金子です。

昨日、宮沢賢治の雨ニモマケズの詩がでてきましたので、今日はその詩についてお話させて頂きます。

日本で知らない人がいない詩人・童話作家の宮沢賢治（1896-1933）ですが、その一番有名な詩が『雨ニモマケズ』です。

仏教の勉強をしてはじめてこの詩のすごさが分かりました。

改めてその「詩」をみてみましょう。

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク

決シテ瞞ラズ

イツモシヅカニワラッテキル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

小サナ萱ヅキノ小屋ニキテ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクワヤソショウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒドリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ

賢治は幼い頃から、父親が熱心に行っていた浄土真宗の家で育ちました。

ところが賢治は、青年時代に法華經に惹かれ、浄土真宗ではなくて日蓮宗にはまります。
日蓮宗の經典が「法華經」です。
そして、農業技術者（科学者）、仏教者（法華經信者）として盛んに活動をしました。

賢治の思想の根っこに法華經の考え方があり、作品に反映されています。

- ・ 自己犠牲、
- ・ 衆生の救い、
- ・ 真の幸福、
- ・ 生き物への「大慈悲の心」、
- ・ 死後の世界、
- ・ 宇宙のエネルギー、
- ・ 不殺生戒、など。

そして生涯を通して『エゴイズムを否定』の考えがあります。

お父さんの浄土真宗のテーマが自分一人の救い、死んでからの極楽浄土への救いだったの
に対して、賢治の信奉した法華經は、自分より他人（衆生）の救い、あの世よりこの世
で、理想の世界「仏国土」の実現を説きました。

雨ニモマケズ（1931年）は賢治の死後に見つかった詩ですが
まずこの部分

東ニ病気ノコドモアレバ
行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクワヤソショウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ

釈迦の「四門出遊」といって、釈迦の出家のきっかけとなった東西南北の門で「病老死」
を目にしたという話しにかぶせています。

慾ハナク
決シテ瞋ラズ
イツモシヅカニワラッテキル

この箇所は、煩悩を脱した悟りの心境でしょう。
そして、友巖和尚が昨日お話をした「デクノボー」の話へと続きます。

このように、仏教の精神は文学者によっても多く伝えられています。仏教に影響を受けた
作家として幸田露伴、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、宮沢賢治、岡本かの子、坂口安
吾さんらがいます。

チャンスがあればぜひ手に取って読んでみてください。